

NITS オンライン動画視聴後の「振り返りシート」〈校内研修シリーズ〉

【No144:「先生が忙しすぎる」をあきらめないⅡ 働き方を見つめなおす Why What How】

Step.1

(1) 部活動で休養日を設けるように促すガイドラインが国や各教育委員会で作られています。どういった趣旨、理由でそうなっているのでしょうか。次の下線部に書きましょう。

休養日を設ける趣旨のひとつは、生徒の健康を守るという観点があります。とりわけスポーツの場合、運動のし過ぎは怪我や故障の原因となり得ることが分かっています。また、生徒が生涯にわたってスポーツ活動や文化活動として楽しんでいくためにも、中高生のうちからの猛練習には一定の配慮や歯止めが必要であろうという趣旨があります。また、教職員の負担と健康という問題もあります。部活動も影響した長時間勤務により、過労死や深刻な健康被害も起きています。

(2) スライド 18 枚目のワークログをもとにした振り返りについて、自身の 1 日の動き、活動を思い出しながら、同じようにメモしてみましょう。個人または学校組織、もしくは教育委員会において、反省点や改善できそうなところはありますか。次の下線部に書きましょう。

(参考例)

- ・教職員の勤務時間より前に生徒が来校する慣習を変えることはできないだろうか。
- ・欠席連絡等は電話ばかりに頼らず、クラウド上のフォームを活用するなどして、なるべく簡便に情報共有しやすいものになっているだろうか。
- ・丸付けやコメント書きの必要性は高い？ 毎回必要とは限らない。授業中に済ませられる方法もあるのでは。ICT教材・アプリなどで教員側の作業を効率化しつつ、その生徒にとって苦手なところに復習問題を出すことなどもできる。
- ・プリント印刷など、教員業務支援員等と分担できることもありそう。
- ・生活ノートの点検ややりとりは、本当に必要？ 面談等ではしゃべるのが苦手な生徒もいるとはいえ、毎日多大な時間を要するほどの効果はあるのだろうか。先生のチェックやコメントも毎回必要なのだろうか。学習習慣という観点では、生徒が自分でスケジュールを立てて、振り返りができるようになることが大事なのでは？
- ・部活動指導の時間は時間外の多くを占める。もっと減らすことはできないか。遅くまでの部活動は生徒にとっても負担となる。
- ・校務分掌のドキュメント管理や引継ぎに課題がある模様。

・問題の小さなうちから対応しておくということには賛成だが、保護者相談は勤務時間外でも当たり前という姿勢ややり方について、見直してはどうか。いじめ事案など真に緊急性の高いことは別だろうが。また、対応する場合であっても、次の予定があることを告げておき、一定時間内にする。

・（この日がたまたまかもしれないが）思ったよりも会議が多いわけではない。

・疲れたあとでの授業準備になっているので、質が伴っていない可能性がある。

Step.2

(1) なぜ忙しい日々を変える必要があるのか。校内研修や衛生委員会、別の会議（企画会議や業務改善委員会など）で話し合ってみましょう。

(2) なにをどうしていくか。Step.2(1)を踏まえつつ、①学校でできること、②教育委員会等の協力があればできること、③個人で取り組めることに分けて、リストアップしてみましょう。そのあと、①については優先度の高いものはなにかについても、話し合ってみましょう。